

## 港湾関係研究奨励助成金に係る研究成果報告の原稿の書き方

本様式は、港湾関係研究奨励助成金により行われた研究成果について報告の書式を定めたものであり、原則として研究成果報告は日本港湾協会港湾政策研究所が発行する研究レポートに掲載します。このため、体裁や品質に大きな問題があるものは再提出をお願いすることがあります。

ただし、使用するOSやソフトウェアの違いにより生ずる差異については問いません。

なお、研究レポートに掲載するにあたっては、日本港湾協会が定めた査読要領により査読を行います。

## 1. 研究成果報告の原稿の書き方

### 1.1 書式

#### (1) レイアウト

用紙は原則としてA-4版縦置き

書式：横書き、1段組

上辺マージン30mm、下辺マージン30mm、左辺マージン25mm、右辺マージン25mm

字送り11.35pt、行送り16.75pt

1ページの行数は40行、和文では1行に40文字（明朝体・ゴシック体11pt）、英文では1行に87文字（New Times Roman 11pt）

#### (2) フォント

##### a) 和文原稿

項目別に用いるフォントは以下のとおり

明朝体（11pt）：本文、著者名、著者所属、アブストラクト

ゴシック体（11pt）：研究題目、章・節の番号および見出し、図・表の番号およびキャプション、謝辞・付録・参考文献の見出し

##### b) 英文原稿

原則、New Times Roman（11pt）で、和文原稿のゴシック体に該当する項目は、bold体とする。

すべて大文字（11pt）：研究題目、著者の姓、章の見出し、「ACKNOWLEDGMENT」・「APPENDIX」・「REFERENCES」の見出し

### 1.2 記載内容

#### (1) 文頭配置内容

文頭には、研究題目、所属、著者名、要旨、キーワードを記載してください。

#### (2) 研究題目

研究題目は、副題も含めて30字以内（英文15ワード以内）とします。

**(3) 所属及び著者名**

著者所名の前に、研究成果報告時の勤務先、肩書きを記載してください。

**(4) 要旨**

得られた研究成果の要点を具体的に述べた要旨を、和文では320字以内、英文では100ワード以内で記載してください。

**(5) キーワード**

研究内容を適切に表すキーワードを、日本語・英語でそれぞれ3～5ワードを付けてください。英語のキーワードは固有名詞でない場合は小文字で表記してください。

**(6) 文章および章・節・項**

文章は口語体で、基本的に「である調」で統一してください。私的な表現、広告、宣伝に類する内容は記載しないでください。

章、節、項の見出しの数字（すべてゴシック体の太字）は次のように統一します。

第一レベル：1, 2, 3, . . .

第二レベル：1.1, 1.2, 1.3, . . . . .

第三レベル：(1), (2), (3), . . . . .

第四レベル：a), b), c), . . . . .

第五レベル：①, ②, ③, . . . . .

見出し語はゴシック体にし、左詰にします。

なお、第一レベルの見出しの前後にそれぞれ1行の空行を、第二レベルの見出しの直前に1行の空行を設けてください。

**(7) 略語、用語、数式、記号****a) 略語、用語**

略語あるいは慣例となっていない用語を使用する場合は、最初に記載する箇所で定義あるいは説明を行ってください。

**b) 数式**

数式はセンタリングして、式番号は右詰とします。数式は簡単で解釈しやすい形でまとめて下さい。

**c) 記号**

文字、記号、単位記号などはできるだけ常識的な記号を使い、記号が最初に現れる箇所で記号の定義を説明し、同一記号を2つ以上の意味で使うことは避けてください。

**(8) 図・表**

図（写真を含む）、表の作成および本文への挿入は以下のとおりとします。

- 図・表の見出しはゴシック体とし、図の見出しは図の下に、表の見出しは表の上に配置します。
- 図・表はそれらを最初に引用する本文と同じページに配置し、図・表の表題・説明文は本文と同じ言語を使ってください。
- 図・表の上下は各1行空けてください。
- 図・表を他の著作物から引用する場合は、必ず明記し、必要に応じて原著者の了承を得てください。

### （9）参考文献

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所<sup>1)</sup>のように、上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを本文末に出現順にまとめてリストとして示してください。

### （10）文末注・付録

注はできるだけ避け、本文中で説明することを原則としてください。止むを得ず注が必要な場合は文末注とし、本文の流れと関係ない場合には付録とし、文末注・付録が必要な箇所にはそれぞれ（注1）、（付録1）のように番号を付ける。文末注、付録は、参考文献の前にまとめ、付録、文末注の順番に記載してください。

## 2. 著作権と著者の責任

港湾関係研究奨励助成事業により行われた研究の成果は、助成金の交付を受けて研究を実施した著者に帰属し、研究成果としての報告書の著作権は著者にあり、報告書の内容については著者が責任を持つことになります。

ただし、港湾関係研究奨励助成金の交付を受けて研究を実施した著者は、研究成果を日本港湾協会港湾政策研究所が発行する研究レポートに掲載することについて同意したものとみなします。

## 3. その他

報告書は、紙ベースと電子媒体（CD-ROM）により、それぞれ各1部を提出してください。提出された報告書は一切返却しません。

報告書は、研究レポートに掲載することを目的として日本港湾協会査読委員会において査読させていただきます。同委員会の査読結果により、修正をお願いすることがあります。

なお、査読委員名及び査読内容は公表いたしません。